



可児市立東可児中学校
令和7年12月18日発行

地域にとって貴重な宝

校長 堀田 誠

先日、桜ヶ丘ハイツ秋まつり実行委員会に出席しました。今年の秋まつりは多くの方々が来場し、とても盛況に行われました。その日は、MLBのワールドシリーズ第7戦が行われ、ドジャーズの大谷選手、山本選手が大活躍し、注目度も高かったです。秋まつりが行われた時刻は、ちょうどテレビでも放映されていましたが、秋まつりを訪れた人数は、推定で約2250人と多かったです。住民人口が9013人なので、およそ28%の方が桜ヶ丘地区センターに足を運ばれたということです。

そんな秋まつりの反省と次年度に向けての課題点を話し合いました。この秋まつりには東可児中学校の生徒も多数参加しており、参加された方々から、中学生に関して、以下のようなご意見をいただきました。

- ・中学生ボランティア（職場体験）が頑張ってくれた。中学生の職場体験の子達が、あらかじめテント設営をしてくれたおかげでスムーズに準備が進み大変ありがたかった。（同意見多数）
- ・パネル組みを中学生や自治会の方々が手伝いくださり、とても助かりました。
- ・中学生のボランティアの皆さんに感謝します。

実行委員会の中で、実行委員長の田中さんが「司会をしてくれた子は本当によかった。」、委員の一人が「抽選会を手伝った中学生の子は、明るくとても上手に大人から子どもまで対応してくれた。」というご意見をいただきました。秋まつり実行委員の方々は、活気ある地域づくりのために、様々な場所で尽力されており、中学生のような若い力を本当に温かく見守っていただいています。可児市の東西には、多くの団地があり、かつては名古屋市ベッドタウンとして様々な地域から多くの方々が移住し、各自治会も活気がありました。しかし、現在は高齢化が進み、空き家も多くなり、地域の存続が危ぶまれています。そんな危機的状況を打開しようと頑張ってみえる方々も、段々と年齢を重ね、次世代を担う人物の確保が最大の課題事項となっています。そういった意味でも、中学生の力は地域にとって貴重な宝といってもよいのかもしれません。

教員という仕事は、活力に溢れた児童生徒と接することができ、いつもその力をいただける幸せな職業だと思っています。2025年（令和7年）も残りわずかです。今年も生徒からたくさんの力をいただき、一日一日を充実させることができました。本当に感謝、感謝です。2026年も皆さんにとって良い年であることを願いつつ、大晦日の除夜の鐘を聞きたいと思います。



校門付近の椿

